



図1. 千葉県印旛村 (現, 印西市) 山田で見いだされたアマゾントチカガミ。水が枯れて陸生状態になっていた (2009年9月20日)。

図2. アマゾントチカガミの浮葉ロゼットを下側から見たところ。葉裏の大部分をドーム状に盛り上がった気嚢が占め、中にハチノス状の空隙があることが分かる。



図3. アマゾントチカガミの雄花。3枚のガク片が開出し、その内側に3枚の花弁がアーチ形に内曲する。雄しべは6本みられる (印旛村山田で採取され、千葉県立中央博物館の温室の水槽で栽培中の個体。2011年5月2日)。



図4. アマゾントチカガミの雄花。ガク片の上に淡黄色の花粉がこぼれている (個体と撮影日は図3と同じ)。

図5. アマゾントチカガミの越冬の様子。葉身のほとんどは枯れているが、葉柄基部からロゼットの中心は生きています。師戸川 (印西市鎌刈・大廻) で2011年7月に採取され、千葉県立中央博物館生態園の野外で栽培中のもの。2012年1月12日撮影。この場所の約5m横の百葉箱では、数日前に日最低気温マイナス4.0℃を記録している。



愛知県豊橋市に帰化したヒガタアシ (新称) 瀧崎吉伸 (本文6頁参照)



写真1. ヒガタアシの花穂 写真はいずれも2011年10月12日 愛知県豊橋市で瀧崎が撮影 (写真1と2は瀧崎28088と同群落のもの)



写真2. 横走する地下茎

写真3. 丸いパッチ状の群落



ツツイトモ 水田光雄 (本文5頁参照)



左・排水用の溝に生育するツツイトモ, 右・ツツイトモの花